

2008年3月31日

金沢星稜大学経済学会 「北陸地域地場産業への提言会」報告書

A Report of “Four Suggestions for The HOKURIKU area Local Industries”
For the Society of Economics KANAZAWA SEIRYO UNIVERSITY.

金沢星稜大学 経済学部 准教授 奥村実樹

Miki Okumura

講師 山崎 泉

Izumi Yamazaki

2008年3月13日に金沢星稜大学経済学会主催で北陸地場産業への提言会を実施した。報告者は、金沢星稜大学4年生中野聡子・橋口昌弘・八幡磨未子・中村隆の4名である。各提言に対して、最もふさわしいと思われる行政関係者をコメンテーターとして配した。それにより、学生の提言が会場ですぐ、担当者に評価・検討されるという非常にユニークで新しい報告会となった。本報告書は、金沢星稜大学経済学会として開催した「北陸地域地場産業への提言会」を記録したものである（敬称は2008年3月時点）。

目 次

1. 企画名
2. 目的
3. 特徴
4. タイムテーブル
5. 場所・日時
6. 各報告に対するコメント内容
7. フロアからのコメント
8. 参加者リスト
9. 今後の検討課題
10. 別途資料

1. 企画名：「北陸地域地場産業への学生提言会」

2. 目的

2007年12月19日に開催された卒論発表会にて、石川県を中心とした北陸の地場産業に特に関心を示し、関係者各位に提言するに相応しい研究と認められる学生4名の学外提言会を実施した。卒業研究の意義と貢献を地域に公開し、開かれた大学を目指す足掛かりとしたプロジェクトである。

3. 特徴

報告する各学生の提言内容に関連した行政の方（最前線で働く）にコメントを直接頂く形をとる。また、県内の複数の業界団体に依頼し、多くの企業にメーリングリストの形で案内をかける。この2点、特に前者に関して、本企画は非常に独創的であると思われる。

4. タイムテーブル

13:30 ~ 13:35	開会の挨拶	金沢星稜大学 経済学部 教授 乃村 晃
13:35 ~ 13:40	趣旨説明	金沢星稜大学 副学長 坂野 光俊
	司会	金沢星稜大学 准教授 奥村 実樹
13:40 ~ 14:00	報告 1	経済学部 4年生 中野 聡子 『金沢和傘の復興をめざして～和傘を使ったまちづくり～』
	コメント 1	金沢市産業局 工業振興課 新木 伊知子
14:00 ~ 14:20	報告 2	経済学部 4年生 橋口 昌弘 『NBEU の構築～能登バイオマス経済連合～』
	コメント 2	石川県農林水産部企画調整室専門員 西山 宏
14:20 ~ 14:40	報告 3	経済学部 4年生 八幡 磨未子 『LOHAS と ART で南砺市を掘り起こす』
	コメント 3	金沢星稜大学 教授 高木 亮一
14:40 ~ 15:00	報告 4	経済学部 4年生 中村 隆 『大学生にとってのボランティアの意義』
	コメント 4	石川県県民ボランティアセンター 出和 弘二
15:00 ~ 15:20	コメント	フロアからのコメント
15:20 ~ 15:25	総括	金沢星稜大学 学長 早瀬 勇

5. 場所・日時：金沢星稜大学・402 教室・2008 年 3 月 13 日・13：30 から 15：25

6. 各報告に対するコメント内容（ICレコーダーからの聞き起こしを元に）

(1) 挨拶：経済学部長兼副学長 坂野光俊 先生

「経済学部長をしております坂野です。趣旨説明ということですので、本学の経済学会がこういう催しをやるという趣旨について簡単にご説明させていただきます。経済学会という組織は本学の教職員と学生が一緒になって、教育研究活動を行うという自主的な組織であります。4年前から大学の改革の一環として授業改善を行ってきました。1・2年生の時には週に2回ゼミナールをやってまいりました。社会人としての基礎的な学力、ビジネスパーソンとしての基礎能力をつける目的で、週1回ずつそれぞれゼミを行っております。1年生から4年生までゼミナールを行っている大学はたくさんありますが、週2回ゼミナールをやる大学というのは今のところ本学だけであろう自負しております。入学した学生は最初に新入生研修ということで、これまでは輪島で一泊研修をやっていたわけですが、昨年は山中で一泊研修を行っております。2年間、1・2年次において、週2回ゼミをおこなうようになりましたので、来年からは2年次のゼミナールの活動の成果報告として、学生全体が学内のではありますが、成果発表会を行うという事を予定しています。今回、この催しをやるきっかけとなりましたのは4年生のゼミ生が卒業にあたって昨年度からはじめて卒論の発表会です。昨年の12月に2回目を実施したことになります。来年度の4年生からは卒業論文を必修にするということも考えておりまして、その意味では今の4年生がいわば経過措置の最後の学生となります。なぜ卒論の発表会をやるようにしたかと言いますと、本学の学生のいわゆる品質保証としまして、4年間の勉強の成果がどれぐらいのものを社会の人に見てもらおうということが目的であります。300人余りの学生が10分間でプレゼンテーションをやって、5分間の質疑をやるという形を2年間実施、それを卒業該当の学生が全員やるということについては珍しいだろうと自負しております。今までの2年間は学内的にしかやってきませんでしたが、できれば来年からは高等学校の先生であるとか、父母の皆さん、就職内定をした企業の方にも来て頂いて本学の卒業生がどれほどの学力をもっているのか、外からの目で判断をして頂きたいと考えております。外からの評価に耐えられるような学生を作っていきたいという一環としてはじめての制度であります。今回の提言会は、昨年の12月に300人ほどの学生が行った発表の中で、内容が地域の産業に関係のあるということ、また、報告自体よくできていたというものを中心にしてこういう企画を行いました。ゼミの先生から学生を推薦していただいたわけですが、今日発表する4人の諸君も、こういう場で発表するというのは初めての経験ですので大変緊張しているようです。それで、コメンテーターの方々に

は、色々不十分な所があるかと思いますが、今後の成長をはげますような暖かいコメントをお願いしたいと思います。こういう事が定着していきまして、来年度以降の所で、ぜひ全体の学生に対して外からの評価を得られる取り組みにしていきたいというのが趣旨であります。そこへの橋渡しの最初の第一歩、その意味では今回の4人の学生は本学経済学部において記念すべきパイオニアとして登場するのだという風に思っております。少し長くなりましたがこれが趣旨でありますので、この主旨をご理解頂きまして暖かいコメントをお願いし、はじまりのコメントにさせて頂きたいと思えます。どうもありがとうございました」

(2) 中野聡子『金沢和傘の復興をめざして～和傘を使った街造り～』



目次

- ・はじめに
- ・地域交流プロジェクト
- ・松田弘さんインタビュー
- ・インタビューから
- ・終わりに

動機

もれしゃん塾での活動を通して、
伝統工芸の素晴らしさを感じた

伝統工芸品の新たな使い道を見
つけたい！

もれしゃん塾とは？

・フランソワーズ・モレシャンさん
を主宰とする塾



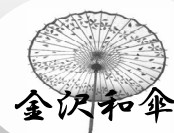
- ・伝統工芸品を使った事業を展開
- ・“若者”がまちづくりをしていく



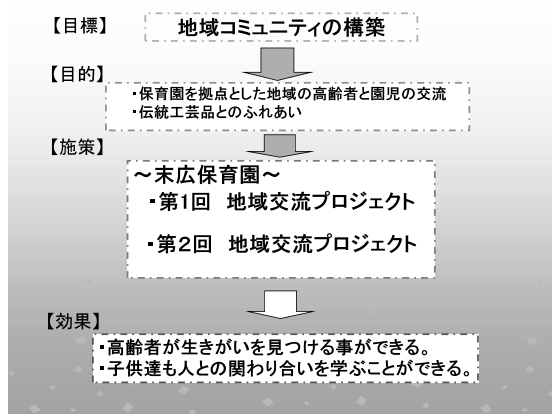
はじめに

伝統工芸品

地域交流



地域交流プロジェクト
～ふれあい傘記念日～



【なぜ金沢和傘なのか？】

①人と人との繋がり



② “本物”に触れる

金沢に古くから伝わる和傘

伝統工芸品の良さを感じる

第一回プロジェクト～和傘絵付け体験～



(平成19年10月11日)

第二回プロジェクト～和傘お披露目会～



(平成19年11月16日)

和傘職人 松田 弘さん
インタビュー

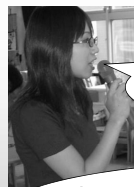
松田さんプロフィール



松田 弘(まつだ ひろし)

1924年石川県金沢市生まれ。

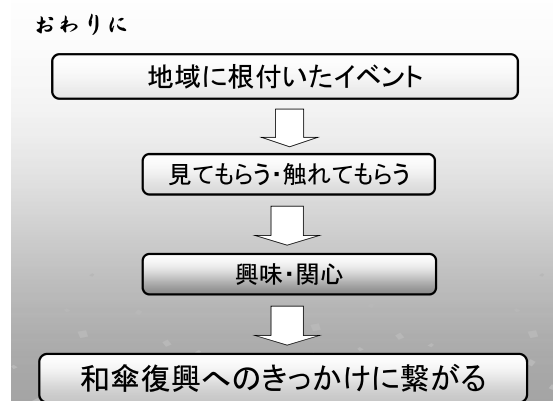
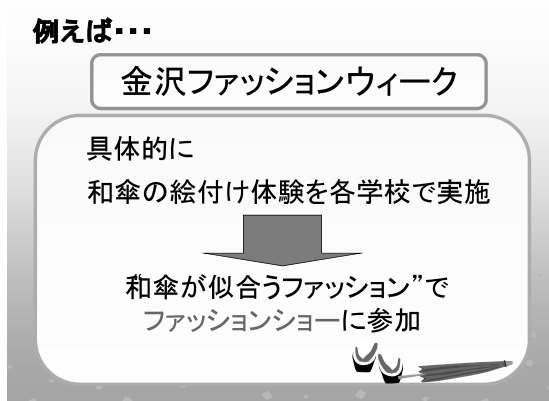
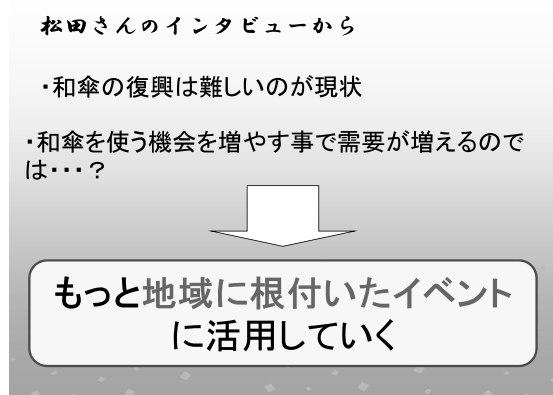
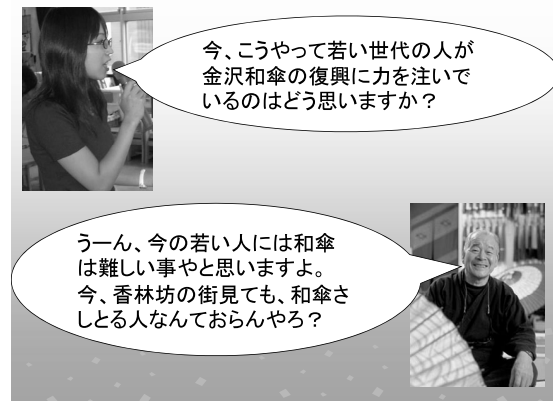
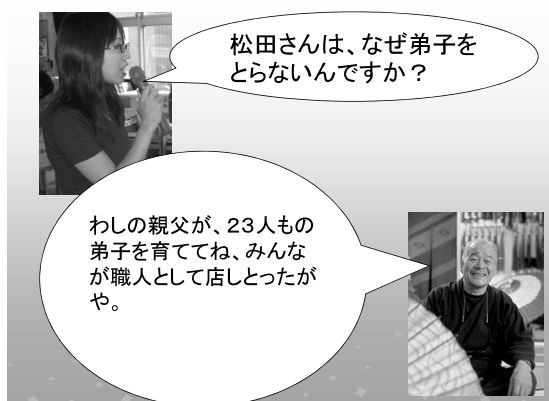
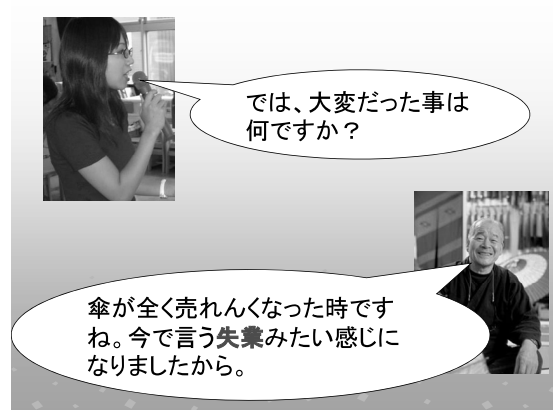
12歳の頃から傘職人の親方であった父のもと、各工程を受け持つ弟子職人たちに習い、現在では全工程を一貫生産するただ一人の和傘職人。千日町の松田和傘店でその技を見ることができる。

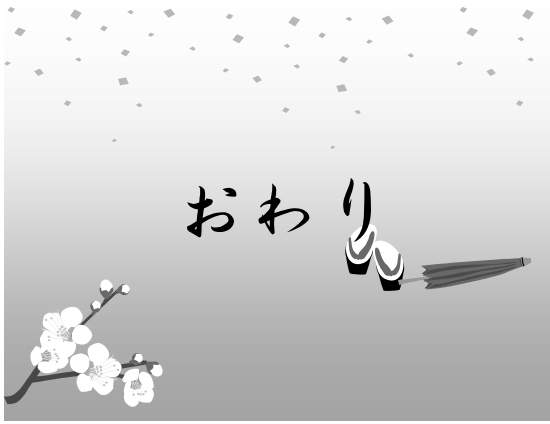


今回のふれあい傘記念日はどう思いますか？

良いことですね。出来上がってきた傘に、小さい手形が押してあったり、とても可愛らしいと思いましたね。







(3) 司会：奥村実樹 准教授

「今の中野さんの報告にも出てまいりましたが、モレシャン塾というのは本学の澤先生とモレシャンさんが設立のきっかけを作り、澤先生が指導にあたっております組織です。中野さんの本報告は、テレビ金沢の報道番組ビー・ビーミツバチの中でも紹介されました。では、コメントを頂きたいと思います。金沢市産業局工業振興課ファッション産業振興室新木様、よろしくお願いいたします」

(4) コメンテーター：金沢市産業局工業振興課ファッション産業振興室 新木伊知子 様

「新木と申します。よろしくお願いいたします。まず中野さんにお礼を言いたいと思います。伝統工芸をテーマにあげていただけてとても感謝しています。今発表の中にもありましたが、金沢の和傘を含め、稀少伝統工芸といいまして、そのほかには、加賀てまり、かがぬい、ちょうちん、琴などがあります。いずれも同じ後継者不足という問題を抱えています。

今の発表についてですが、ふれあい傘記念日としまして、高齢者の方や子供たちが触れ合いながら和傘作りの一部の工程を経験されたことはとても有意義なイベントだったと思います。おじいちゃんとかおばあちゃんは、おそらく若い時に和傘を一度や二度は使ったことがあるんじゃないかと思います。私自身、成人式の時に着物と一緒に和傘を送られた経験があります。傘を広げたときに内側の部分に赤や緑や黄色のきれいな糸が結んである。それを見てとても心がうきうきしたものです。和傘というのは和服を着て和傘をさすということが多いんですけれども、それはとても金沢らしい情緒のある光景だと思います。

また、参加された子供たちにとってはとても貴重な体験だったと思います。いつもビニール傘しか知らない子供たちが、たくさんの方の工程でもって和傘が作られているということを知ることができたんじゃないかと思います。金沢市では来年度から『金沢工芸子供塾』といいまして、幼い頃から工芸に親しむ機会を持てればということで、現在受講生を募集しております。

それから提案となっております後継者、担い手不足という観点では、色んな支援制度も設けております。市もがんばっているんですけども、松田さんのようになかなかお弟子さんをとっていただけないというような仕方もございます。非常に難しい問題だと認識しています。松田さんももう83歳ですので、和傘という点においては先行きが不安に思っております。

今回の中野さんの提言は、稀少伝統工芸ということで何とか和傘を復興させようという思いが詰まっていたように思います。まず、なぜ和傘が必要かという点で本物に触れることはもちろんですが、地域コミュニティということで人とのふれあい、ということをやテーマにされていることがとても新しい視点だと思いました。そしてそのテーマが高齢者や子供たちが、一緒に作業をするという、そういう試みにも表れていて、とてもいいと思いました。

それからまた私どもが主催しております10月に開催予定のファッションウィークに和傘を使ったファッションショーということをご提案いただきました。ファッションウィークの愛称は『金沢ものみ』と言いまして、金沢で作られた金沢見立ての繊維や伝統工芸のメッセとなっています。そこではファッションショーも開催いたしますので、何かご提案が活用できればと参考にさせて頂きたいと思っております。本日はどうもありがとうございました」

(5) 司会：奥村

「新木様，コメントありがとうございました。ファッションウィークで日の目を見ることを是非とも期待しております」

(6) 橋口昌弘『NBEUの構築～能登バイオマス経済連合～』

～能登バイオマス経済連合～

～NotoBiomassEconomyUnion～

金沢星稜大学 経済学部
専任講師 橋口昌弘

動機

- 以前、輪島市の地域経済活性化を研究していた時、観光業中心の活性化案に限界を感じた。

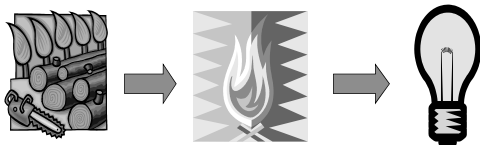
■ 問題意識

- ・少子高齢化が進行する現代で、将来的に人口が減少すれば、観光客の絶対数も減少するのは明らか。
- ・別の産業を創出し、それを主産業にすることが必要と感じ、そして、新産業創出のカギは「バイオマス」と位置づけ、研究を始めた。

第一章「バイオマスタウンの先進地域」

● バイオマスタウンとは？

バイオマスを利活用し、地域経済活性化を目指す市町村のことで、最終的に「資源循環型社会」の構築を目指し、農林水産省が推進している



早川町バイオマスタウン構想1

■ バイオマスタウン構想

目的：観光客の増加による地域経済の活性化
「都市農村間交流」・・・早川町の第一次産業にバイオマスシステムを取り入れ、都市部との交流事業に力を注ぎ、都市部の人間が早川町の第一次産業に挑戦するよう誘導する

↓
「スローライフの聖地 早川」



目次

- 第一章「バイオマスタウンの先進地域」
- 第二章「能登バイオマス連合」
- 第三章「NBEU案の必要性」
- 第四章「これからの地域経済活性化の在り方」

第一章「バイオマスタウンの先進地域」

■ バイオマスとは？

「植物を利用した新しいエネルギー資源」

○ バイオマスエネルギーの用途

- ・電気や熱エネルギー
- ・ガソリンに代わる運送燃料(バイオディーゼル)
- ・バイオプラスチック
- ・家畜の飼料、肥料など

事例1. 山梨県早川町

- 山梨県南巨摩郡に位置している

■ 現状

人口：1740人(バイオマス構想書 200年度より)

高齢化率47.2%



早川町バイオマスタウン構想2

■ バイオマスタウン構想

○ 「木質バイオマスを熱エネルギーへ」

都市農村間交流事業を中心に据えていることから、木質バイオマス資源が豊富にあるため、それを熱エネルギーに変換し、町営の観光施設に暖房、給湯の熱エネルギーとして供給する。

石川県七尾市(バイオマスタウン構想)

- バイオマスタウン構想と七尾市経済再生戦略プランを活性化案として推進中
- バイオマスタウン構想
 - 家畜排泄物の堆肥化 製材工場残材の堆肥化
 - 食品廃棄物の燃料化等を推進中
- 期待される効果
 1. 有機農作物の市民への供給
 2. RDF燃料化に係る経費の削減
 3. 農山村の活性化

七尾市経済再生戦略プラン

- 七尾市経済再生戦略プラン
 - 目的・・・「雇用の創出」
 - 1: 既存産業活性化 2: 外的資本誘致
 - 3: 新ビジネス創出
- ↓
- 「資源循環型社会の構築」、「雇用の創出」が
七尾市の目的

NBEU案

- 「人口増加」・・・バイオマス発電により三市二町の光熱費を無料化。移住しやすい生活環境を提供する
- 「雇用の創出」・・・バイオマス産業の創出する
- 「交通の新規開拓」・・・海路の開拓

第二章「能登バイオマス経済連合」

- NBEUとは「NotoBiomassEconomyUnion」
(能登バイオマス経済連合)の略称
- ・ 七尾市、輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の三市二町でバイオマス産業を中心に据えた経済連合の結成を提案

提案理由

- ・ 資金力の強化
- ・ 活用土地範囲の拡大



第三章「NBEU案の必要性」

- 北海道夕張市の財政破綻原因
 - ・ 主産業であった炭鉱がエネルギー事情の変化により相次いで閉鉱
- ↓
- ・ 人口の流出とともに歳入が激減し、赤字が膨らみ財政破綻へ至った
- 能登三市二町の自治体は、いつ財政破綻に陥るかわからない現状であると推測
 - このような現状を打破するためにNBEU案は有効である

第四章「これからの地域経済活性化の在り方」

- 財政破綻する自治体はこれからも増加してくると推測
- 隣接する複数の自治体で協力して打開策を図るべき



(7) 司会：奥村

「初めに経済学部長の坂野先生からお話がありました通り、本学は全学年で少人数のゼミナールを実施しております。報告者の橋口君は、一年生の時から地域に関するゼミナールで活躍し、今回の報告に至っております。それではコメントの方を頂きたいと思いますが、石川県農林水産部 企画調整室 西山様 よろしいでしょうか。お願いいたします」

(8) コメンテーター：石川県農林水産部企画調整室専門員 西山 宏 様

「石川県の西山です。私は県の方でバイオマスの窓口の担当をしておりますので、主にバイオマスの観点からコメントをさせていただきます。まず、バイオマスの目的としましては、提言の方にもありました通り、地域経済の活性化というものを一つの目標としております。

今回の提言におきましては、七尾市以北で地域活性化の中心産業として、バイオマス、その中でも特に木質バイオマスというものを選ばれたということでした。これにつきましては七尾市以北のことを考えた場合には、県全体の人工林面積の5割以上を七尾市以北の方で占めているということがありますのと、またこの地域というのは昔から林業、木材産業というのが非常に盛んに行われてきているという実態がありますので、非常に利にかなったもので

はないかと考えています。

今回、NBEU案を提案するにあたって、裏付けをもって、観光産業との対比でこの話を考えたということですが、他県のバイオマスを良く参考にし、色々な所を検討したりしているということで、非常によく練られているのではないかと思います。

それからこのNBEU案の中心のところ、これからの地域経済活性化のありかたというところです。隣接する複数の自治体と協力して打開策を図っていくべきだという考え方ですけれども、これは本当に重要な所として、バイオマスの利活用の進展というものを考えていくうえで一つのポイントとなるところです。一般的にバイオマスの利活用のためには、資源の収集という入口の部分と、製造する中間の部分、利用していく出口の部分、その入口から出口までがバランスよく一連の流れを持っている、きちんと結びついているかどうかというのが非常に重要になってきます。こういう流れを作ろうとしたときに、一つの行政区域で考えていくとなかなかそれが効率的に行えない場合があったり、不可能な場合がでてきたりします。

今回の提言では3市2町の間でバイオマスの経済連合の結成という形でいくということになっておりまして、こういう地域と連携してお互いのために、ひとつの取り組みを行っていくということは、このバイオマスの産業を考える時には非常に重要です。他の取り組みにおいても今後重要になっていくのではないかとこのように考えられます。全体としまして地域の実情でありますとか、あるいはその推進体制というものを踏まえているという点で非常に良い提言になっていると感じました」

(9) 司会：奥村

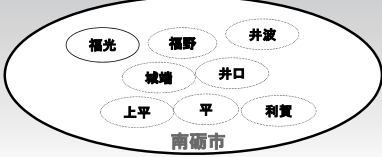
「西山様ありがとうございました。では2つめの報告を終わらせて頂きたいと思います」

(10) 八幡 磨未子『LOHASとARTで南砺市を掘り起こすーThink Locally, Act Locallyー』

LOHASとARTで南砺市を掘り起こす
-Think Locally, Act Locally-
 南砺市、好きになってほしいがいちゃ
 高木ゼミ 104278 八幡磨未子

目的

- ・生まれ育った土地を活性化したい。
- ・流行だけにならないまちづくりを考えたい。
- ・また南砺市でなければできないまちづくりを考えたい。



方法

- ・文献調査
- ・インタビュー調査
- ・現地訪問調査

目次

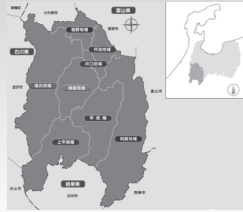
第一章 南砺市概要

第二章 コンセプトデザイン

第三章 南砺市の“LOHAS+ART計画

第一章 南砺市概要

- 2004年11月1日、旧8町村が合併
(城端町・福光町・福野町・平村・上平村・利賀村・井口村・井波町)
- 旧町村の個性が強すぎて市としてのまとまりに欠ける。
- 旧町村をもとにした国内外の姉妹都市との関係が強く、市内での協力関係が弱い



(第一章 南砺市概要)

主なまちおこし行事

- スキヤキミーツザワールド 2007
- 利賀サマー・アーツ・プログラム
- いなみ木彫刻キャンプ'07
- 上畠アート'07



スキヤキミーツザワールド2007



井波木彫刻キャンプ'07

第二章 コンセプトデザイン

コンセプトはなぜ必要か？

1. 今まで意識しなかったものを生かす
2. 既存のものに新しい意味を与え、生まれ変わらせる
3. 個々の要素を統合していくことが可能

コンセプトに必要な条件は？

1. 多世代で共有できること
2. 一時の流行にとらわれないこと
3. その地域に沿い、浮きすぎないこと

(第二章 コンセプトデザイン)

上畠アート'07

“村にアートの種を蒔きました”



画像出典：上畠アート'07HP

- 上畠アート'07実行委員会 主催
- 平成19年8月18日(土)～
26日(日)9日間

- 南砺市利賀村上畠一帯
- 内外の芸術文化界の人たちと親交を育んできた地域
- 地元住民の発案で、古民家を画廊として解放

(第二章 コンセプトデザイン)

上畠アート'07

特筆すべき点

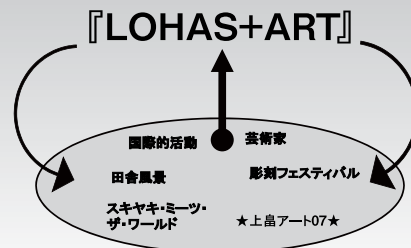


画像出典：上畠アート'07HP

- 発案が住民であること
- 新しい施設・備品など使用していないこと
- 地域で活躍する芸術家であること
- 比較的高齢の方にも支持された活動であること
- 芸術家が民家に待機していること



第三章 南砺市の“LOHAS+ART”計画



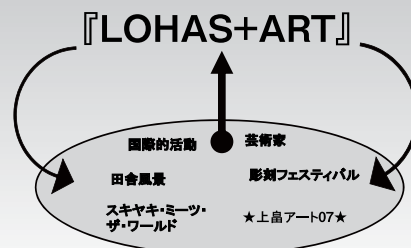
(第三章 南砺市“LOHAS+ART”計画)

キーワード

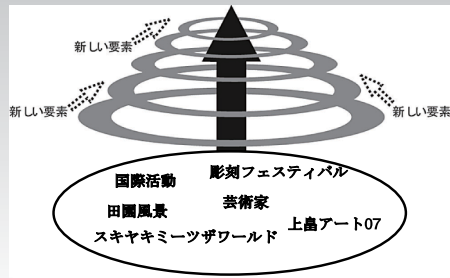
- LOHAS(ロハス)
Lifestyles Of Health And Sustainability
「健康と持続可能性のライフスタイル」の意。
- ART(アート)
絵画・音楽に限らず、広く民族芸術や歴史芸術などを含む。

(第三章 南砺市“LOHAS+ART”計画)

南砺市 “LOHAS+ART” 計画



地域形成のダイナミック・プロセス



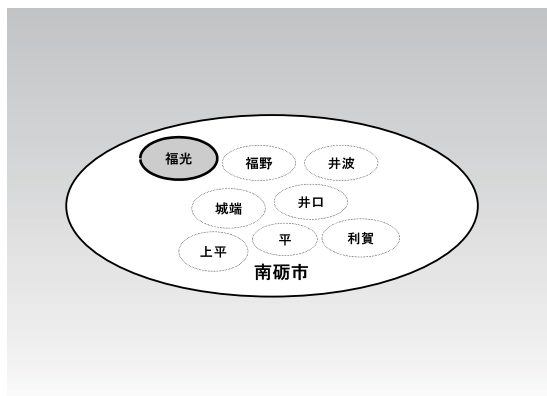
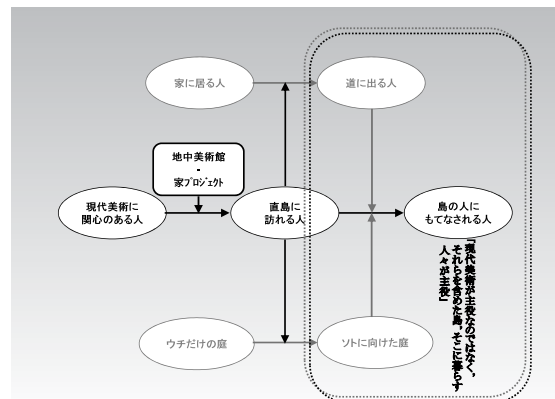
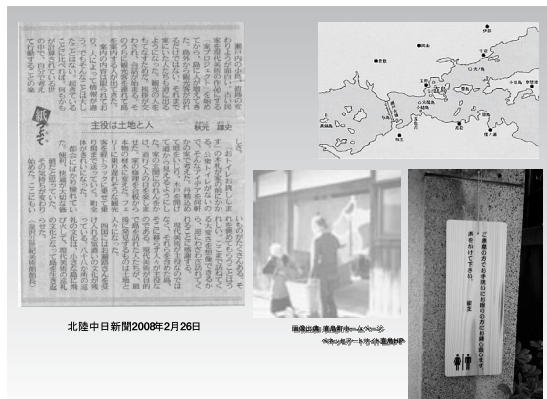
• コンセプトには・・・

⇒さまざまな世代が住む南砺市では、みなに理解されるコンセプトであることが必要。

⇒またLOHASやARTIは英表記であるため、今まで力を入れていた海外へのアプローチもよりしやすくなる。

• 内発的に行動を起こすことが最も重要

⇒自分たちが主役として活動していると思えることが重要。



END

参考文献

- ① 酒村幸夫〔編〕『まちづくり学 アイディアから実現までのプロセス』朝倉書店、2007
- ② ダニエル・ペンギン／ハイコンセプト「新しいことを考え出す人の時代」三笠書房、2006
- ③ 斉藤次男〔著〕『どこにもないまちをつくる—いつでも、どこでも、誰でもできる市民参加型 地域再生(活性化)プログラム付—』ぎょうせい、2007
- ④ 海野通〔著〕『これからの地域経営—ローカル・ガバナンスの時代—』同友館、2007
- ⑤ 平成16-17年度学内共同研究「北陸地域の活性化の研究」金沢星稜大学、2007
- ⑥ 田村明〔著〕『まちづくりの実践』岩波新書、1999
- ⑦ 高木晴夫、木嶋恭一、出口弘他『マルチメディア時代の人間と社会』日科技連出版社、1995、p.99
- ⑧ 井上繁〔著〕『世界まちづくり事典』、2007
- ⑨ 南砺市観光課〔編〕『南砺市観光マスタープラン』南砺市、2007
- ⑩ 富山新聞「高岡ロック物語」シリーズ掲載
- ⑪ 南砺市〔編〕『主要施策報告書 平成18年度』南砺市、2007
- ⑫ 南砺市市長政策室企画課〔編〕『南砺市総合計画 概要版』南砺市、2007
- ⑬ 南砺市地方自治研究センター〔製作〕『南砺市 市町村合併調査レポート』 南砺市、200
- ⑭ 南砺市いなみ国際彫刻キャンプ実行委員会事務局〔編〕『INAMI INTERNATIONAL WOODEN SCULPTURE CAMP IN NANTO CITY』、07南砺市、2007
- ⑮ 南砺市友好交流協会HP (<http://www.nanto-ykk.org/index.html>)
- ⑯ 南砺市HP (<http://www.city.nanto.toyama.jp/webapps/www/index.jsp>)
- ⑰ 南砺市いなみ木彫刻キャンプ2007 (<http://camp2007.city.nanto.toyama.jp/>)
- ⑱ スキヤキミーツザワールド'07 (<http://www.sukiyaki.cc/index.html>)
- ⑲ 上島アート'07 (<http://uebateart.blog.nanto-e.com/>)

(11) 司会：奥村

「本学は石川県だけではなくて、福井県、富山県からも学生がたくさん来ております。最初の中野さんも富山県の出身ですし、橋口君も福井県の出身です。八幡さんも自分の生まれ育った町を盛り上げたいという気持ちが根底にあるので、市町村合併のためのコンセプトの重要性が伝わったのではないかと思います。では、コメントの方を本学の高木先生、よろしくお願いいたします」

(12) コメンテーター：金沢星稜大学教授 高木亮一 先生

「この論文の指導教員として補足しながら質問をしていきたいと思います。今の発表は、全国でいろいろ言われている市町村合併、それがなかなかうまくいかないというのがあるのですけれども、その市町村合併が経済合理性だけを軸に行われていくと、その地域が持っていた気持ちというものの持って行き場というのが見つからない。今の八幡さんの発表にもあったように、そもそも福光に対する愛着はあるのだが、気がついたら南砺市というのができていて、ではその市全体に対する愛着があるかという正直まだまだ無い。それをなんとかしたいということで、福光は好きだけど南砺市も好きになりたい、なってほしいー“南砺市、好きになってほしいがいちゃ”）ーという言葉が出てきたわけですね。

そういう事を考えていくときに、全体のコンセプト、福光を含んだ全体のコンセプトにキーワード（ここでは『LOHAS』『ART』）を与えていくことによって、自分の住んでいる土地に新たな意味を見出しながら市全体の大きいイメージを探っていく。そういうプロセスの中で自分の住んでいるところを大事にしながら、思いを深くしながら、全体に対する気持ちも高めていくーそのような内容の論文だったわけですが、そういう中で街づくりをする時に大事なのは、自発的という言葉も出てきたのですけれども、どういう風に自分たちの気持ちを変えていくか、上から何かをやるということではなく、自分たちでやっていかなければならないーそういうときにどのように気持ちだとか心構えを変えていくかということです。さっきの直島の例ではそれが見事に実現されているわけですが。

ここからは発表者に対する質問になりますが、この論文をこういう形で考えていって、八幡さん自体は福光に対する見る目、そして福光を含んだ南砺市を見る目は変わってきたのか。その辺はいかがですか？」

八幡さんのコメント

「福光に対する愛着は以前と変わらずあります。南砺市に対する愛着は調べていくうちに知らなかった事が山ほどあったことに気づきました。限界集落って聞いて外部の人が聞くと“もう死んだな”と思うかもしれないんですけれども、意外に行ってみるとそうでもなくて、暖かい感じもしましたし、村自体も頑張っている感じがしました。どのイベントでもそうなんですけれども、やっぱり参加することによって、イベントに愛着がわいてきます。それが各地であるので、それに対してまた行ってみようとか、もう一回見てみようかという気持ちになり、南砺市に対する愛着は深まったと思います」

高木先生のコメント

「大変良かったです。それではもう一つ質問ですが、この論文、4年生で書かなくてはいけないのですが、このテーマを選んで論文を書くプロセスの中で、こういう経験が自分にとってどういう意味・意義をもつのだろうかーこの先就職も決まっている訳ですし、その辺りについて少し聞かせて下さい」

八幡さんのコメント

「大きな考え方で物を考えられるようになったと思います。自分のしなければいけないことが小さいことであっても、それを放棄するとかではなくて、それをしながら大きな目線や違う視点で物事をみることができるようになったかなと思います。この先、福光に就職するので、行く行くはこういうことができるようになりたいなという気持ちは芽生えてきました」

(13) 司会：奥村

「高木先生ありがとうございました」

(14) 中村 隆『大学生にとってのボランティアの意義～社会における人材育成の視点から～』

2007年度卒業論文

〔研究テーマ〕
大学生にとってのボランティアの意義
～社会における人材育成の視点から～

金沢星稜大学 池田ゼミナール 中村 隆

本研究に至る経緯

「加賀温泉駅前周辺清掃活動」
主催：加賀市、金沢星稜大学池田ゼミナール
共催：加賀市タバコ協同組合

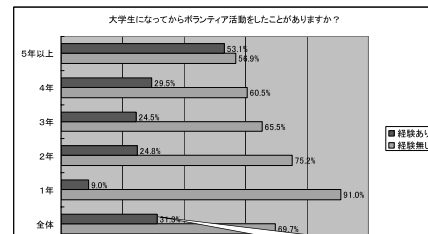
「石川県立白山青年自然の家」での活動
石川県立白山青年自然の家主催事業
「エンジョイ&サポート」

どれぐらいの大学生がボランティアを経験しているのだろう？
大学生がボランティアをする意義とは何だろう？

本研究の目的

1. 今日の学生とボランティアに関する現状の調査
2. 大学生がボランティア活動を行うことの意義についての考察
3. ボランティア活動へ参加できない学生の問題点とその解決策

↓
少しでもボランティアに興味を持ち、参加してくれる大学生を増やすことで地域に貢献していきたい。

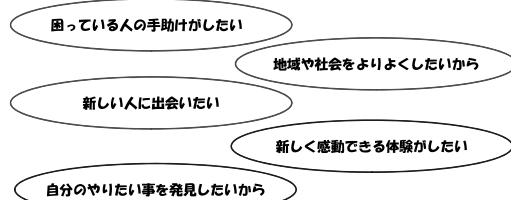
大学生ボランティアの現状調査
学生のボランティア活動の参加状況
【早稲田大学学生部 学生生活調査報告書 2007より抜粋】


大学生の3割しかボランティアに参加していない

大学生ボランティアの現状調査

あなたがボランティアを行う理由は何ですか？

【学生ボランティア活動に関する調査報告書 2より抜粋】

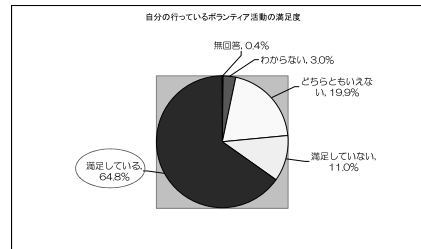


人のためという以外にも自己実現をしたいという意見が多い

大学生ボランティアの現状調査

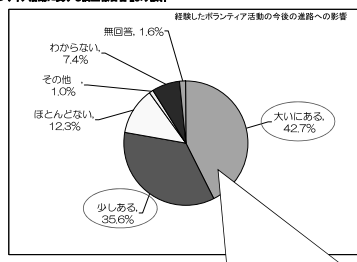
自分の行っているボランティア活動の満足度

【学生ボランティア活動に関する調査報告書 2より抜粋】


大学生ボランティアの現状調査

ボランティア活動が及ぼす学生の進路への影響

【学生ボランティア活動に関する調査報告書 2より抜粋】



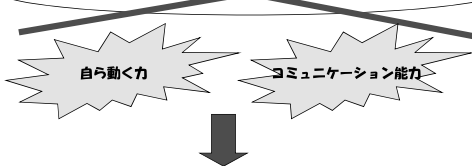
全体の8割以上がボランティアが進路に影響があると回答

大学生ボランティアの現状調査

企業が求める大学生像

インタビュー NOK株式会社業務本部人事課

ボランティア活動を行う学生は採用活動において有利になるのでしょうか？

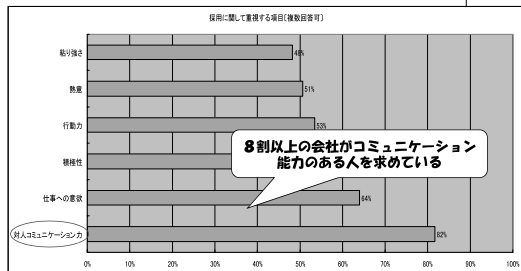


ただボランティアに参加しただけではなく、そこから得たこと、力になったことについて熱く語ってくれると好印象だそうです。

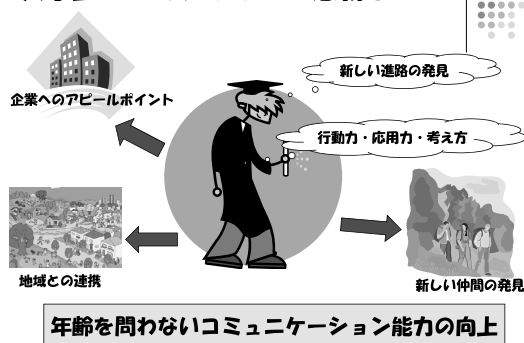
大学生ボランティアの現状調査

企業が求める人物像

【採用に関して重視する項目（複数回答可）】より抜粋



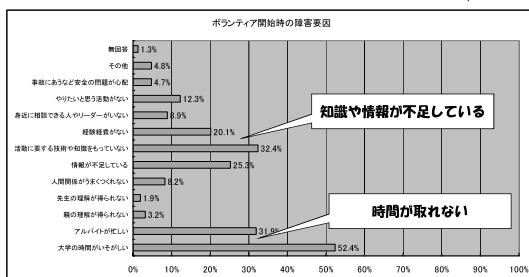
大学生のボランティアの意義とは？



なぜボランティアに参加しないのか？

ボランティア開始時の障害要因

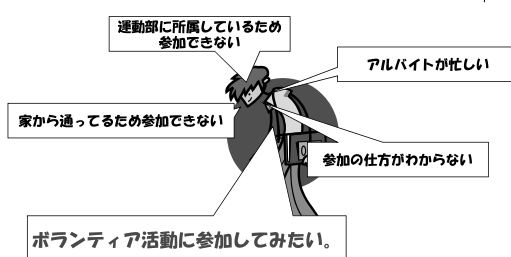
【学生ボランティア活動に関する調査報告書】より抜粋



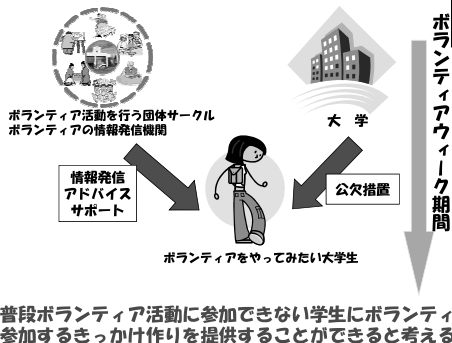
なぜボランティアに参加しないのか？

他の大学生へのインタビュー

【金沢星稜大学、金沢工業大学、金沢大学、北陸大学の学生よりヒアリング調査】



ボランティア活動への参加意欲向上のための検討策 「ボランティアウィーク」の提案



おわりに

今回はヒアリング調査を中心に、大学生のボランティア活動に関して検討を行い、ボランティアの現状とその課題について把握することができた。しかし、限られた範囲での資料調査やヒアリング調査が中心となり、よりフィールドに出て活動ができれば、多面的な視点からもボランティア活動に関して考察することもできたと考えられる。今後も地域との連携を大切に、実際に地域社会に出向きながら、検討を深めていきたい。

なお、本研究に際して、多くの方々に協力して頂き、交流を深めながら進んでいくことは、非常に貴重な経験だったと思われる。最後に、特にヒアリング調査で協力して頂いた、県内の大学生や企業の方、そして今回この提言会を開くにあたってご支援を頂いた方々をはじめとする沢山の方々に、この場を借りてお礼を述べさせていただきます。

(15) 司会：奥村

「中村君は、今の調査・報告の面だけではなく、実際にボランティアの活動にも熱心に参加している学生です。では、コメントの方を頂きたいと思います。財団法人石川県県民ボランティアセンターの出和様、よろしくお願いいたします」

(16) コメンテーター：財団法人石川県県民ボランティアセンター 出和弘二様

「中村さん、報告ごくろうさまでした。現在私が勤めております県民ボランティアセンターには、たくさんの学生さんが出入りされております。たとえば、新聞等でも話題になった、町会と協定を結んだ雪かきボランティアとか、あるいは商店街が空洞化する中で街づくりに協力する学生ボランティアとか、そういう方々も私たちのボランティアセンターに出入りされております。

中村さんも加賀温泉駅前の清掃ボランティアや県立白山青年の家での活動を通してですね、フィールドワークといえますか、そういうものに参加されてですね、積極的に実際の経験を通してボランティアについて考えておられるという点に関してたいへんうれしく思います。単に文献、インターネット等の調査だけではなく、実際に体験した人

へのインタビューやまた自分の経験を通してボランティアというものを考える。これは文献から得た情報をより確かにでき、また新しい発見もあるかと思います。

中村さんの発表の中には、『若者たちのエネルギーで地域を活性化できないか、そのためにはより多くの学生がボランティア活動に参加してほしいという願い』、そして、『大学生にとって地域と交流するボランティア体験は、よりよい社会人を作るという人材育成の面がある』との視点からこの論文をまとめられておりました。大学生の中でどれだけボランティアに参加している人がいるかについて文献からデータをとっておいででしたが、これを調査するとなると大変な事だと思います。早稲田大学のデータを元にはじめられまして、ゼミの担当の先生とも連携し、報告書も参考にされ、自分の体験も含めて解決策を見出し、ロジカルな形で論が展開されているという点に非常に感心しました。

ボランティアというのは、する側もされる側もたいへんメリットのある活動だと思います。これが基本にないと、要するにボランティアをしてあげているという意識、これではボランティアをする側も長続きしませんし、される側もいい気持ちはしません。要するにお互いにメリットのある活動であることが大事なのですね。中村さんの発表の“満足度”の中にも、『楽しかった』、『友達がたくさんできた』、『人間性が豊かになった』など、その人にとって充実感、満足感がもてた、あるいはその人の成長を助けたといった自分に返ってくるものがあるということですね、これが非常に大事なことだと思います。企業の方も面接の際、『ボランティアをしたかしたなかったかということよりも、そこに取り組む姿勢、目の前に課題があると、それに対して解決したいと自ら動く、行動力を評価する』とおっしゃっておいででしたが、ボランティアの本来の意味もそこにあるのではないかと思います。

ボランティア活動を通して、社会人として求められる、自ら問題点に取り組む行動力が身につくと同時に、コミュニケーション能力もつくとおっしゃっておいでしましたけれども、そうだと思います。社会一般には、『ボランティア活動は好きな人がするもの』、『奉仕の精神でもって自分を犠牲にして行いう活動』という、なんとなくマイナーなイメージでとらえている方もいますが、決してそんなことはないということをですね、中村さんもいろいろな所でぜひ知らせていっていただけたらと思います。

ここで中村さんの話に戻りますが、ボランティアウィークを設けてはどうかというのは非常に面白い発想だと思います。提案の中では公欠扱いにするというのがありましたが、学生の皆さんは長期休業がありますので、ぜひそれを利用してみてはいかがでしょうかと思います。またボランティア活動を回りが積極的に評価する環境が大切だと思います。ぜひ大学の方でも評価し、ボランティアをしている人が発表する機会、交流する機会などを設けて頂けたらと思います。中村さんの発表には心強いものを感じました。ありがとうございました」

(17) 司会：奥村

「出和様、ありがとうございました」

7. フロアからのコメント

清水哲郎（南砺市役所産業経済部 商工課 課長）

山崎 弘（福光農協協同組合総務部 審査役）

井口敏夫（財団法人石川県産業創出支援機構プロジェクト推進部 ネットワークサブマネージャー）

松村文夫（金沢市異業種研修会館 館長）

馬場康之（財団法人金沢青年会議所 副理事長）

以上、コメント順

(1) 南砺市役所産業経済部商工課課長 清水哲郎様

「今日は大きな発見、いい人を見つけたなと喜んでおります。南砺市が合併しまして、おっしゃられる通り一体感が出ないというのが現実ではありますが、先ほど南砺市は嫌いだとおっしゃられましたが、このプレゼンを通してものすごく好きになったのではないかと思います。そして、地域づくりの話ですが、その中心になる人がいかに頑張るかが私は一番大事な事だと思います。どこの地域の街づくりでも中心になる人がしっかりしている、そういう所がうまく地域づくりをしていると思うわけであります。最後の発言の中で私が起爆剤になりたいという心強い発言がありました。ぜひ南砺市の起爆剤になってほしいと思います」

(2) 福光農業協同組合総務部審査役 山崎 弘 様

「農協でもいろいろな研究会などあるわけではありますが、これだけ立派な研究発表をされる方はおりません。特に農業、農村は非常に難しい立場、状況に置かれています。今度素晴らしいかたが入って頂いて、こういう若い方にしっかり手伝いをして頂ければ、まだまだ農協も大丈夫だだと思います」

(3) 財団法人石川県産業創出支援機構プロジェクト推進部ネットワークサブマネージャー 井口敏夫 様

「日ごろ、産業創出支援機構は企業の支援をさせて頂き、私は産学関連の担当であります。こういった学生さんが心強い意見を持っておられて、私も南砺市の方に行くのですが、いろいろな所がまとまってこうやって力を発揮するためには、機会となる“場”を増やして行くことだなと思いました。南砺市の市役所の方もおっしゃっておられたように、まとまっていくというのはなかなか時間のかかることなのですが、若い人がこうやって意見を持ってやられていくというのは、企業の発展においても素晴らしいなと思いました。また、これからは市なら市、県なら県と協力していきながらやっていってけると素晴らしいなと思います」

(4) 金沢市異業種研修会館館長 松村文夫 様

「私は福光町出身なのですが、福光町には愛着はあるが南砺市には…、というのには同じ考えを持っています。もっとさかのぼりまして、50年前には旧の福光町がまわりの村と合併したということもありました。その時も旧の福光町と周りの村とがすぐにはしっくりいかなかったように思いますが、長い時間をかけて、元の村のところにイオックスアローザができたり、周辺に温泉ができたり、変電所ができたりと、そういう所で少しずつうちとけていったのではないかと。そのために、この提言会のような、若い方々が提言されていくと、もっとはやくうちとけるのではないかと思います。」

また、私は電気工学が専門ですのでバイオマスの事を言われた方に少し厳しい言い方かもしれませんが、県の方もおっしゃいましたが、間伐材を集めるのが大変なのではないかと。高齢化社会の中にあって、間伐しそれを集めるのが非常に大変なことではないかと。そこにもう少し考察を深められればいいのではないかと思います。それから、金沢市もごみを集めて発電を行っていますが、数千キロワット程度でありまして、周りの電気代をただにするというのには難しいというのを知っておいてほしいと思います。一方で、LOHASの事をおっしゃいましたが、二つ組み合わせればいいのではないかと。LOHASとバイオで能登あるいは南砺市を活性化すると、そういうあたりを組み合わせるといいのではないかと思います」

(5) 社団法人金沢青年会議所副理事長 馬場康行 様

「私たちの青年会議所というところも、街づくり、人づくり、環境問題などに取り組んでいるわけでありまして。本日は提言会ということでありましたが、これから4名の皆さんが卒業されて社会人になられて、今日発表されたことを実際に取り組んでいかれて、将来ぜひ実現させていただきたいという風に思いながら聴かせて頂きました。周りにはたくさんの協力してくれる方々がいらっしゃると思いますので、ぜひともがんばって頂きたいと思います」

8. 参加者リスト

参加合計 61人

学外からの参加 19人

出和弘二（財団法人石川県県民ボランティアセンター）

馬場康之（財団法人金沢青年会議所 副理事長）

今川弘和（財団法人金沢青年会議所）

神 和成（まちづくり室 室長）

高村久司（大学コンソーシアム石川 主幹）

渡辺聖子（北陸中日新聞編集局報道部 記者）

新木伊知子（金沢市産業局工業振興課ファッション産業振興室 担当課長補佐）

板井 豊（金沢市産業局工業振興課 課長補佐）

細川一郎（財団法人石川県産業創出支援機構）

西山 宏（石川県農林水産部企画調整室 専門員）

松村文夫（金沢市異業種研修会館 館長）

里見浩次郎（金沢市異業種研修会館 担当課長 補佐）

井口敏夫（財団法人石川県産業創出支援機構プロジェクト推進部 ネットワークサブマネージャー）

竹内恵美子（富山中央水産株式会社管理部 主任）

清水哲郎（南砺市役所産業経済部商工課 課長）

山崎 弘（福光農協協同組合総務部 審査役）

小寺美和（株式会社東洋設計）

黒崎弘司（金沢市立工業高等学校 教諭）

鶴野俊哉（石川県立工業高等学校 教諭）

金沢星稜大学教職員 19 人

金沢星稜大学学生 19 人

会場補助学生 4 人（撮影：山本彩香・寺内大智，受付：小西 舞・大塚真由美）

9. 今後の検討課題

- ・報告学生の確保（報告会のテーマが限定されている）
- ・事前準備の担当者割り当て
- ・外部への告知方法（今回は（社）石川県情報システム工業会など関係者団体から所属する企業にメールを出してもらう）

10. 別途資料

ホームページ各種に使用したチラシ

北陸地域地場産業への提言会

2007年12月19日に開催された卒業論文発表会にて、石川をはじめとする北陸地域の地場産業に関心を示し、関係者各位に提言するに相応しい研究と認められる学生4名の学外提言会を実施します。卒業研究の意義と貢献を地域に公開、開かれた大学を目指す足がかりとしたプロジェクトです。

**参加
無料**



提案報告1

(13:40～14:00)

中野聡子「金沢和傘の復興をめざして～和傘を使った街造り～」

衰退が叫ばれる地元の伝統産業金沢和傘。そのすばらしさを体感した私が、「ふれあい」をキーワードに金沢和傘の良さを伝える金沢に似合うイベントを企画・実施しました。

提案報告2

(14:00～14:20)

橋口昌弘「NBEUの構築～能登バイオマス経済連合～」

能登半島七尾市以北の山林資源の保全と環境に優しいエネルギー確保を目指して、木材チップを利用したバイオエネルギー経済圏を提案する。

提案報告3

(14:20～14:40)

八幡磨未子「LOHASとARTで南砺市を掘り起こす」

「南砺市、好きになってほしいがいちゃ」「LOHAS」「ART」をキーワードに、南砺市の新たなイメージの形成、コンセプトづくりをめざして

提案報告4

(14:40～15:00)

中村 隆「大学生にとってのボランティアの意義・社会における人材育成の視点から」

地域は若者たちのエネルギーを求めている。相互交流もまだまだ少ない。ボランティアに参加する学生しない学生それぞれを分析する事で見えた若者たちの意欲向上策を提案！

日時

2008年 **3月13日** (木) 13:30～

場所

金沢星稜大学 401講義室

※参加お申し込みは特に必要ありません。

※駐車スペースに限りがございますので、できるだけ公共の交通機関をご利用下さい。

主催 金沢星稜大学経済学会

TEL:076-253-3926 FAX:076-253-3995

E-mail:soumu@seiryu-u.ac.jp URL:http://www.seiryu-u.ac.jp